

第49回蒲郡市地域公共交通会議 議事録

1	日時	令和8年6月19日（金）	午後3時～午後4時45分
2	場所	蒲郡市役所 303会議室	
3	出席者	委員 愛知工科大学機械システム工学科教授 委員 名城大学理工学部社会基盤デザイン工学科教授 委員 愛知運輸支局 委員 愛知県都市整備局交通対策課 委員 形原地区公共交通協議会 委員 東部地区公共交通協議会 委員 西部地区公共交通協議会 委員 三谷地区公共交通協議会 委員 大塚地区公共交通協議会 委員 西浦地区公共交通協議会 委員 塩津地区公共交通協議会 委員 蒲郡市身体障害者福祉協会 委員 蒲郡市老人クラブ連合会 委員 蒲郡市社会福祉協議会 委員 蒲郡市小中学校PTA連絡協議会 委員 NPO法人ブックパートナー 委員 蒲郡市ボランティア連絡協議会 委員 蒲郡市子ども会連絡協議会 委員 蒲郡商工会議所 委員 蒲郡市観光協会 委員 名鉄バス株式会社 委員 豊鉄タクシー株式会社 委員 株式会社かねー自動車 委員 名古屋鉄道株式会社 委員 公益社団法人愛知県バス協会 委員 愛知県タクシー協会 委員 愛知県交通運輸産業労働組合協議会 委員 愛知県蒲郡警察署 委員 東三河建設事務所	村上新 松本幸正 原田光一郎 高臣綾子 （代理 市川哲也） 藤田幸三 水津啓晴 河井則夫 平野良則 澤田洋春 鈴木成人 杉本福夫 神田元治 鈴木香代子 竹内仁人 福井香奈 岡田有里子 山本なおみ 坪井英幸 小澤素生（欠席） 杉山和弘 （代理 高井知明） 後藤泰之 （代理 垣内優哉） 鈴木英司 黒木成美 （代理 與那覇渉） 内藤真一 （代理 丸山浩喜） 小林裕之 小笠原洋和（欠席） 壁谷政志 磯貝篤 鵜飼哲基

委 員	蒲郡市長	鈴木寿明
委 員	蒲郡市市民生活部長	大森康弘
事務局	蒲郡市交通防犯課長	磯貝友宏
	蒲郡市交通防犯課係長	石川雄策
	蒲郡市交通防犯課主査	小林佑輔
	蒲郡市交通防犯課主事	山村輝良々
地域公共交通計画推進事業受託事業者		三菱ＵＦＪリサーチ&コンサルティング株式会社
		２名
幸田町企画部企画政策課		２名

4 議題

(1) 開会挨拶

5 報告事項

- (1) 令和７年度公共交通の利用状況について・・・【資料１】
- (2) 地域公共交通確保維持改善事業の二次評価結果について・・・【資料２】
- (3) 公共交通ネットワーク（幹線バス）の再編について・・・【資料３】
- (4) 東部地区支線バスの停留所設置場所及び運行経路の一部変更について・・・【資料４】
- (5) 東三河地域公共交通利用促進イベントの実施について・・・【資料５】
- (6) えこたんバス（幸田町）の一部市内乗入れについて・・・【資料６】

6 協議事項

- (1) 令和７年度蒲郡市地域公共交通会議決算について・・・【資料７】
- (2) 令和７年度蒲郡市地域公共交通計画の評価結果について・・・【資料８】
- (3) 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金について・・・【資料９】

7 その他

8 議事内容

(1) 開会

- ・ 出席委員が２９名であり、定足数に達しているため、蒲郡市地域公共交通会議設置要綱第７条第２項の規定により会議が成立すること、本日の会議が公開となっており、傍聴を希望される方がいることが事務局より報告された。

(2) 議題

・ 開会挨拶

名鉄蒲郡線について、令和９年４月から１５年間の運行方針が決まり、協定書締結を目指して、国への再構築事業に係る申請手続きの準備を進めている。バスについては、幹線バスの再編を検討していき、各地区のくるりんバスについてもルートや停留所等、さらなる利便性向上に向けた改善を行う予定。それぞれの立場から積極的なご意見をお願いする、とのあいさつがあった。

- ・ 議長より本日の議事録署名人として２名の委員が指名された。

(3) 報告事項

ア 蒲郡市内公共交通の利用状況について

- ・ 事務局より資料 1 に基づく報告が行われた。

〔質 疑〕

(委 員)

- ・ 路線バスの西浦方面の利用実績が厳しい状況にあるが、原因はわかっているか。

(事務局)

- ・ 運行事業者に確認した中には、日頃からよく利用されていた乗客を見かけなくなったという声があったが、具体的な理由の特定に至っていない。

(委 員)

- ・ 減少している停留所を特定し、現状把握に努めてほしい。また、タクシーの高齢者割引制度の利用者数も減少傾向にあるが、こちらの原因は特定できているか。

(事務局)

- ・ 利用枚数では減少している一方、配布枚数は横ばいであるため、周知の問題でなく、利用者の外出機会が減少しているものと推測する。

(委 員)

- ・ 高齢化など人口動態でやむを得ない理由はあると思うが、心配している。くるりんバスの減少や傾向について、各地区協議会では理由の把握等をしているか。

(形原地区委員)

- ・ 利用者の高齢化の中、令和 5、6 年度の過去 2 年はあまりに好調すぎたと感じる。加えて、2 月以降は節水に伴うユトリーナの閉館で利用が大きく落ち込んだ。

(東部地区委員)

- ・ 原因とまでは言い切れないが、地区内に高齢者や空き家などが増えている状況。

(西部地区委員)

- ・ 西部小学校区は廃校による影響を心配している。目的地となるものがあるとよい。

(三谷地区委員)

- ・ 高齢化の影響もあると思う。引き続き分析を進めていく。

(大塚地区委員)

- ・ 市民病院へ直接行きたいという声がある。

(西浦地区委員)

- ・ 一度ないし複数回、無料で乗車できる機会を作り、住民が無料で乗車できることに興味を持つかをみてみたいと思っている。

(塩津地区委員)

- ・ まだ走り始めて間もない地域なので、もう少し長い目で見ていきたい。

(委 員)

- ・ 無料体験で住民に乗ってもらうことはとてもよいと思う。予算や進め方を市と協議して進めてほしい。

(形原地区委員)

- ・ 西浦と形原は生活圏の重複があるため、路線バスの再編を機に西浦と形原の路線の

繋がりを見直し、くるりんバスで人の流れを誘導できるとよい。

イ 地域公共交通確保維持改善事業の二次評価結果について

- ・ 事務局より資料2に基づく報告が行われた。

〔質 疑〕

なし

ウ 公共交通ネットワーク（幹線バス）の再編について

- ・ 事務局より資料3に基づく報告が行われた。

〔質 疑〕

（委 員）

- ・ 住民意見等を確認する機会を設けるか。

（事務局）

- ・ 新しい停留所の設置や停留所名の変更などは見込むが、運行に関して現行から大きな変更を伴わないので、議会の場で報告することと公共交通会議の場でご意見を賜っていくことで進めていく予定である。

（委 員）

- ・ 新設を見込むクラスポ場内へポンチョ型のバスで左折進入することが可能か。また、渋滞も懸念され、遅延の際の蒲郡駅での乗換えについてはどのように対策していくか。

（委 員）

- ・ おそらく可能と判断しているが試走が未了のため、最終的な判断は、実際に走らせて確認してからがよい。

（事務局）

- ・ 確認しながら進める。

渋滞遅延による循環線への結節懸念に関して、土日祝の遅延は考えられるが、市街地循環線の主な目的地である市民病院が土日祝は休館であることから、市街地循環線とのダイヤ接続の優先順位は平日のダイヤ接続に比べて落として考えている。可能な限りスムーズな乗り換えができるダイヤの設計を進めていきたい。

（委 員）

- ・ 観光客にもわかりやすい停留所名への変更は良いと思う。観光客となると鉄道との接続についても大事と思う。また、市の東側については豊川市との乗入れもあり得るのではないか。地域公共交通確保維持改善事業の二次評価結果にもあるように広域的な移動を考えていく必要がある。さらに、路線バスの再編による各支線バスの調整では地域とコミュニケーションをとりながら進めてほしい。

（事務局）

- ・ 鉄道との接続の重要性は認識している。幹線バスのダイヤが確定した後に、支線バスのルート・ダイヤを調整していくことになる。市外の乗入れの可能性については検討していく。

エ 東部地区支線バスの停留所設置場所及び運行経路の一部変更について

- ・ 事務局より資料３に基づく報告が行われた。

〔質 疑〕

（委 員）

- ・ 現在の停留所周辺住民の利用実績はどうか。利用者がいるなら代替となる停留所への移動は負担がかなり生じないか。

（事務局）

- ・ 該当バス停の利用者は路線の中でも多くなく、現在の停留所のすぐ東側に東部公民館という別の停留所があるため、利用者の負担はそこまで大きいとは考えていない。

オ 東三河地域公共交通利用促進イベントの実施について

- ・ 事務局より資料５に基づく報告が行われた。

〔質 疑〕

なし

カ えこたんバス（幸田町）の一部市内乗入れについて

- ・ 事務局及び幸田町企画政策課より資料６に基づく報告が行われた。

〔質 疑〕

（委 員）

- ・ 市外からの乗り入れは好ましいことと思う。蒲郡市民が深溝周辺のスーパーへ行くことができるか。また、かんだ整形外科までではなく、形原温泉へつなげてはどうか。

（幸田町）

- ・ 令和８年１２月に幸田町内バス路線の再編を進める中で、現行ルート of 所要時間が１時間程度で長いという意見が出てきたために、既存の路線にあるスーパー近辺の停留所はちょうど廃止となる。また、運行時間の都合上、かんだ整形外科より延長することは想定していない。

（委 員）

- ・ 本件は報告事項でよいか。

（委 員）

- ・ えこたんバスの料金が無料であることから報告事項として差し支えない。

(4) 協議事項

ア 令和７年度蒲郡市地域公共交通会議決算（案）について

- ・ 事務局より資料７に基づく説明と監事代表１名から監査報告が行われ、全会一致で承認された。

〔質 疑〕

なし

イ 令和７年度蒲郡市地域公共交通計画の評価結果について

- ・事務局より資料 8 に基づき説明が行われ、全会一致で承認された。

〔質 疑〕

なし

ウ 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金について

- ・事務局より資料 9 に基づき説明が行われ、全会一致で承認された。

〔質 疑〕

なし

(5) その他

(委 員)

- ・市への要望として、高齢者タクシー助成制度について必要な方に絞って配布するなど見直しを検討してほしい。蒲郡市の助成対象条件は、「70 歳以上のみ」であるが、例えば、近隣の他自治体では、「福祉タクシー助成の対象になっていないこと」と「80 歳以上」。他の自治体では、「70 歳以上の市民税非課税世帯」。コミュニティバスとタクシー助成制度で、利用者の取り合いをしているのではないか。

平成 22 年に高齢者タクシー助成制度がスタートした頃は、くるりんバスがなかったが、現在は空白地域が少なくなっている。見直しをすべき時期ではないかと思う。

(事務局)

- ・対象者を限定するなど施策の在り方を含めて、コミュニティバスが拡充する中で、タクシーの高齢者割引制度について見直しをしていくタイミングになっていると思う。ただ、広く使われている制度であるため、難しいところはあるが検討したい。

(市 長)

- ・公共交通への市民意識が高い状況の中、まだまだ不便を感じている方が 35.7%いる。皆様のおかげで一つ一つ解決に導いていただいている。

利便性のほかに料金体系に対する不満もあるのではないかと総合的に施策を考えるべきと感じている。人口カバー率についても 93.5%と、目標値の 92%に対して達成しているということに満足するのではなく、コミュニティバスを含めて公共交通が市民の足となるように努力していく必要がある。

これからアジア・パラ大会が始まり、鉄道、バス、コミュニティバスそれぞれが多くの観光客を会場まで導いていくことも大事。また、本市では現在あじさい祭りが行われているが、案内を含めてまだまだ不十分なところがあると感じている。みなさんの意見ひとつひとつが公共交通をつくっていくと思うので、引続きよろしくお願いします。

(事務局)

- ・次回の地域公共交通会議について、12 月を予定、正式な開催案内を後日送付するとの連絡を行い会議は終了した。

以上、議事の正確を証するため署名する。

蒲郡市地域公共交通会議委員

蒲郡市地域公共交通会議委員
